

## 議事概要

会議名:福岡県におけるエイズ施策モニタリングに関する会議

日 時:2026 年 1 月 5 日(月) 13:00~14:40

場 所:福岡県庁南棟地下 501 会議室

出席者:中尾係長(福岡県 保健医療介護部 がん感染症疾病対策課)

古賀係長(福岡市 保健医療局 保健所 感染症対策部 感染症対策課)

村岡(同上)

菅原(北九州市 保健福祉局 保健所 保健企画課)

南 留美(九州医療センター 免疫感染症内科 科長)

平賀 紀行(九州大学泌尿器科、野木病院麻酔科・泌尿器科)

古川 麻美(平賀班研究協力者)

### 【会議目的】

- ・ 福岡県及び福岡市、北九州市における動向調査報告と施策情報等のモニタリング
- ・ 福岡地域のエイズ施策に関する意見交換

### 【確認事項】

- ・ 本研究班の調査協力への了解の意思を県、市ともに確認
- ・ 公表可能な資料を当班に送るとのこと
- ・ 本会議開催ののちに引き続いて今年度末の 2 月 27 日(金)に九州大学病院会議室で西日本地区重点都道府県会議への参加協力の了解

### 【冒頭あいさつ(平賀より)】

- ・ 令和 7 年 11 月に新指針が策定された
- ・ 旧指針では「T as P」が掲載され、新指針では「U=U」が新たな理念として掲載され、その理念のもと、啓発や検査相談の際や郵送検査の実装、暴露前予防薬投与(PrEP)の整備など、また医療においては治療長期化に伴う長期

## 議事概要

療養の課題が現在すでに認められている

- ・ 平成 28 年まで「重点都道府県会議」が厚労省主催で開催されていたが、以降開かれていないため、平賀研究班が引き継ぐ形で会議を開催する
- ・ 当研究班では、各地域の動向や課題を横断的にモニタリングすることで、指針が指摘するも依然克服できていない課題や各地域の課題の克服に資することを目的としている

### 【議論内容】

#### ○ 福岡県の検査状況及びモニタリングの報告

- ・ 報告内容は重点都道府県等調査票を参照(後日送付予定)
- ・ 休日、夜間検査はエイズデーなどのイベント時に実施している
- ・ 来年度から郵送検査を開始するが実際のニーズが分からないため、イベント時に上限を設けて実施していく予定
- ・ 現状では HIV 陽性者報告数は減少しているが、実際に HIV 陽性者がコロナ前より減少しているのか不明

#### ○ 福岡市の検査状況及びモニタリングの報告

- ・ 報告内容は重点都道府県等調査票を参照(別添)
- ・ 近頃「いきなりエイズ」が増加している
- ・ 検査数がコロナ禍前より減少しており、そもそも希望者が少ない印象である
- ・ 月 1 回休日即日検査を行っており予約がすぐ埋まるが、コストがかかり増枠できない
- ・ 2025 年 11 月から郵送検査を始め、市の窓口までキットを取りに来てもらいその場で検査した後にキットを保健所に送るという方法で実施し、30~40 名ほどが利用した
- ・ 福岡は比較的過疎地からでも市内までアクセスしやすいため、福岡市外の在住者が福岡市内で検査を受けることがよくある
- ・ 福岡市内は特に東南アジア出身の外国人定住者が多く、その多くが学生又は特定技能実習生であり、彼らの生活リズムと保健所の利用可能時間が合っていない印象
- ・ セックスワーカーは保健所の検査に来ている印象

#### ○ 北九州市の検査状況及びモニタリングの報告

## 議事概要

- ・ 報告内容は重点都道府県等調査票を参照(別添)
- ・ コロナの影響により検査数が減少し未だに回復していないため、周知が不足している印象
- ・ エイズデーのイベントを6月と12月に行っており、併せて行われる休日検査の予約はすぐ埋まるが、その他の時期は予約希望が少ない
- ・ 資料内の検査数にある迅速検査は平日検査に含まれる
- ・ ここ数年はHACO(福岡コミュニティセンター)と連携して活動している
- ・ 梅毒感染者は若い世代が多いため、学校でも周知するよう取り組んでいる
- ・ 外国人からの問い合わせが微増している
- ・ 郵送検査は遅くとも来年度6月から開始する見込みで、まずは小ロットで取り組んでみてニーズを把握したい

### ○ 他の議論内容

- ・ 福岡市の予算要求は実績ベースのため予算確保に苦労している。厚労省が年間の指針(例えば人口割合に対する検査数目標)を打ち出してもらえると、予算要求しやすい
- ・ 郵送検査の実際のニーズが不明のため、どれだけの予算を割けばよいのか分からない
- ・ HIVへの関心が低下している印象があり、検査数の伸びにつながっていない。いかに啓発に注力できるかが検査数の伸びに繋がるのではないかと
- ・ **梅毒**検査は受けたいがHIV検査は受けなくていいという要望がある。
- ・ HIV検査は補助費が高いが梅毒検査は補助額が低く、梅毒検査単独ではこちら(県・市事務局)側の負担が多くなるので、補助額を増やしてほしい。
- ・ ブロック拠点病院と中核拠点病院により現状患者受け入れに対応できているが、今後長期療養を見据え、訪問診療を含めいかに地域での受け入れを進めていくかが課題
- ・ 一部、患者受け入れ可能なクリニックが開業したが、今後どのように受け入れ可能なクリニックを増やすかが課題